

少年の眼差

小川国夫

―〈再臨派〉・〈役者たち〉・〈火喰鳥〉の世界―

藤枝市文学館第39回企画展



青島町(現・藤枝市)の自宅前にて(昭和15年)

2015年 4月11日 **土** ~ 5月31日 **日**



昭和初期の藤枝駅前通りの様子
(「ふるさと」の想い出写真集 明治大正昭和藤枝」より)

土曜日、小学校の授業が終えると、
浩は解放される喜びではなく、ほの
暗い部屋にまた縛りつけられに行
く喜びを抱くようになった。
(「再臨派」より)



「火喰鳥」草稿

最新資料初公開

企画展にあわせて常設展示エリアを拡充し、昨年秋にご遺族よりご寄贈いただいた未公開資料を展示いたします。伊藤整文学賞トロフィーや、小川家の表札など、貴重な資料の数々をご覧ください。

藤枝市郷土博物館・文学館

〒426-0014 静岡県藤枝市若王子 500 番地(蓮華寺池公園内)
TEL 054-645-1100 FAX 054-644-8514
Eメール muse@city.fujieda.shizuoka.jp 藤枝市郷土博物館・文学館 [検索](#)

休館日: 4/13(月)・5/7(木)・5/11(月)・5/18(月)・5/25(月)

開館時間: 午前9時~午後5時

入館料: 大人(一般)200円、(団体20名以上)160円

中学生以下及び障害者手帳等をご提示方は無料

※藤まつり期間中(4/18~5/5)は無料・無休で開館いたします。

小川国夫 少年の眼差

—〈再臨派〉〈役者たち〉〈火喰鳥〉の世界—

作家・小川国夫は、6歳のときに藤枝町から移り住んで以来、少年時代を藤枝駅に近い青島町で過ごしました。そのため、小川氏の私小説的作品のなかで少年期を描いたものには、藤枝駅界隈の風景がたびたび登場します。

本展では、「再臨派」「役者たち」「火喰鳥」を中心に、少年を主人公にした作品の原資料・関連資料や、写真パネル等を展示します。小川氏の分身ともいえる「少年」の眼差をとおして、当時の風景を思い描いていただけましたら幸いです。



「再臨派」に
改題した草稿

◆作品舞台と藤枝の風景



「火喰鳥」に登場するお面

自筆原稿や初出誌、
作中に登場する建
造物の白黒写真パ
ネルなどを展示。



「役者たち」の舞台となった東海倶楽部の外観
(『ふるさとの思い出写真集 明治大正昭和藤枝』より)

小川 国夫 おがわ くに お (1927-2008)

静岡県藤枝市生まれ。1950年東京大学文学部入学。大学在学中にフランスへ私費留学。パリ大学などに籍を置き、この間、スクーターで地中海沿岸諸国を旅した。この体験がのちの小川作品の一つの素地となった。著書に『アポロンの島』、『生のさ中に』、『ある聖書』、『試みの岸』、『悲しみの港』、『逸民』、『弱い神』などがある。

◆小川国夫の少年期



父富士太郎、弟義次と釣りに出かける小川国夫(右端)(昭和11年)



(左)小学生の時の習字
(右)小学生の時に描いた軽便鉄道の絵

少年期について
書かれたエッセイ
や、小学生の頃の
絵や習字の作品な
どを展示。



エッセイ「小学校五年の時／本箱と本の思い出」(草稿)

◆関連イベント

オープニングイベントミュージアムコンサート

カトリック教徒であった小川国夫にちなみ、アヴェマリアなどのミサ音楽を中心とした合唱曲をお楽しみ下さい。

と き／4月11日(土) 午後2時～2時45分

出 演／静岡室内合唱団

と ころ／文学館講座学習室

定 員／60名

申込み／不要・直接会場へ(先着順)

参加料／入館料が必要です

小川作品読書会 ①「再臨派」 ②「役者たち」

企画展で取り上げた2作品を読み、その背景などについて語り合います。展示解説も行います。

と き／①5月10日(日)、②5月24日(日)

※いずれも午後2時～3時30分

と ころ／文学館講座学習室

講 師／武士侯勝司さん(藤枝文学舎ニュース編集長)

澤本 行央さん(藤枝文学舎事務局長)

定 員／45名(高校生以上対象)

申込み／電話・FAX・Eメールで郷土博物館・文学館へ

持ち物／筆記用具(テキストは用意します)

参加料／入館料が必要です